五省
一、至誠に悖るなかりしか
一、言行に恥ずるなかりしか
一、気力に欠くるなかりしか
一、努力に慢みなかりしか
一、不精に亘るなかりしか

五省会ニュース

発行所
医療法人財団五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41−2481(代)
発行人 西能 正一郎

初心を忘れず、開院二十五周年

22日、電気ビルホールで記念式典
竹村、行天両氏を迎え、文化講演会

医療法人、財団五省会西能病院（西能正一郎院長）は、開院二十五周年記念式典を三月二十二日午後五時半から富山市電気ビル五階ホールで、役員、職員をはじめ来賓が参列して挙行。この席上、永年勤続者十一人を表彰。このあと、同ホールで、記念祝賀会を開く。

なお、記念行事として同日午後一時半から富山県民会館大ホールで、社会評論家、竹村健一、NHK解説委員、行天良雄の両氏を迎えて、文化講演会（北日本新聞協賛）を開く。入場無料（整理券発行）

西能病院は、昭和三十七年三月二十一日、富山市星井町40番地で、病床十床、職員八人の小さい世帯でスタートした。それが昭和六十二年三月現在では、病床百八十五床、職員百五十六人の大きな世帯になった。

これは、全職員が、新しい時代の病院として、初心を忘れず〝信頼と奉仕〟をモットーに、地域の皆様に良い医療を提供してきたことと、皆様の変わらぬご支援の賜物である。これからも、①医療のレベルアップ②サービスのレベルアップ③地域活動を三本柱に、全職員が一致団結して地域医療に奉仕する。

〝信頼と奉仕〟をモットーに地域医療に努力を重ねている西能病院

第二の四半世紀のスタートにあたり

西能 正一郎

地域と共に生きる病院の責任

休まずに一歩一歩、牛歩の前進

昭和三十七年、三月二十一日、富山市星井町での、西能整形外科医院の開院披露式典は簡素なものでありました。

八人の職員諸君と親戚の人達とで前庭に並んで記念写真を撮ろうとしたときに、春の淡雪が舞って、中断したことをはっきりと憶えております。

整形外科単科で開業するということは、当時の常識としては無暴に近い挑戦でありました。当時の写真を眺めてみますと、並んでいる面々の顔が今ひとつさえないのはそのためであったかも知れません。しかし、どの顔もたしかに若い。これがほんとに自分なのかと疑いたくなるほど私も若く写っています。そのような若造にもおつきあいしていただける患者さんが居て下さったお陰で、又、故住栄作先生始め信じて援助の手をさしのべて下さった皆様のお陰で、とうとう二十五年も仕事をし続けることが出来ることが出来つことが出来ました。今の西能病院の姿を保苦しかったこと、つらかったことは沢山あった筈ですが、今となってみれば、みんな楽しい思い出であります。

今、私の病院ではカルテを始めあらゆる診療記録を開院当時のものから一枚も残さず病歴室に整理保管してありますので、当時の整形外科医療の姿を偲ぶことは容易であります。そして現在私共が行っております診療の実態と雲泥の差があることをまざまざと認識させられるのであります。私の若かったこともさることながら、専門医療と言いながら、この程度のことしか出来なかったかと思われる医療レベルの低さに、皆さんが良くもまあ身体を任せていただいたものだと心から御礼申し上げ、又その間に、これという大した間違いも起さずに切り抜けて来たことを神に感謝せずにはおられません。恩師諸富先生始め、先輩、友人の諸先生達。そして替る替るに大学から派遣されて来た若い医師達に次から次と新しい医療の展開を示唆していただき、整形外科医療の発展から大きく取り残されることなく今日に至っておりますことは何よりもありがたいことであります。

何時画期的な変化があったと言うことなく少しずつの進歩が二十五年も積み重ねられると驚くべき変貌を遂げていることに気付くのであります。二十五年と言えば四半世紀であります。昨今の目覚しい医療技術の進歩を考えますと、今日から第一歩を踏み出そうとする第二の四半世紀にはどのような発展が待ち構えているのでありましょうか。開院五十周年を迎えるときの私の病院の状態は予測することも出来ませんが、年々歳々牛歩に似ても休むことなく一歩ずつ前進して、地域の皆様に常に新しい良い医療を提供出来るような体制作りが、地域と共に生きる病院をあずかる責任者の務めであると、心を新たにしているところであります。

あすなろ

星井町で開業したころの西能病院に転がりこんだ腹痛患者の話が五年前の本紙に載っている。盲腸炎と診断した院長は、すぐ入院させ、他病院の医師を呼んで手術させた。患者に付き添ったマージャン仲間らは、外科医なのに、なぜ院長は自分で手術しないのか不思議だったという▼当時、病院といえば内科と外科。内科は薬、外科は手術で治療するくらいの知識が普通だった。金大に初の整形外科が誕生したころである。整形は新聞記者さえ、よくわからなかった▼「日本間に電灯一つ。その病室でラーメンをすすった」と思い出を語る当時のジャン仲間の一人は「今になると、専門外なのに素早い処置をとってくれた西能病院は、さすがだった」といっている▼戦後の名残りが色濃く尾を引いていたころで、なにもかも不便だらけだった。しかし、今も星井町時代の仲間たちは口をそろえる。「通い合う血の温みがあった。人間味あふれる〝あすの地域医療〟をめざして燃えていた。その血は患者にも伝わったと思う」▼創立二十五年。当時の心は今も受け継がれて西能病院に生きている。院長は「全人医療」を掲げる。そして、「医学が科学的要素の強いのは確かだが、それ以上に忘れてならぬのは人間学だ」と強調する▼輝く四分の一世紀。貫いて明日へつなぐ、この「医の心」にこそ乾杯しよう。

心の通う高度な医療体制で、地域の皆様によい医療を提供する決意です

医療法人 財団五省会

理事長 西能正一郎
常務理事 林 敏彦
理事 米田 寿吉
理事 岸口 繁
理事 中尾 哲雄
理事 西能 綾子
監事 石川 実
監事 筧田 英二
評議員 稲垣 忠一
評議員 井上 塩六
評議員 尾山征一郎
評議員 大上紀美雄
評議員 重松 尚
評議員 神沢 幹夫
評議員 西能 孜
評議員 西能 竑
評議員 坂本 重一
評議員 土田 亮一
評議員 豊田 文一
評議員 古沢 富美
評議員 堀 政夫
評議員 松井元太郎
西能病院職員一同

富山県医師会
会長　本多幸男

〝医療に心〟の一貫した信念

このたび、開院二十五周年をお迎えになり、心からお祝いを申し上げます。

一口に二十五年と申しましても、その間には幾多の困難や障害もあったのことと存じます。それらを、透徹した判断力と卓抜した行動力で見事に乗り越えてこられました。

とくに昭和五十八年三月には、病院の第三期増改築工事が竣工、私的病院として県下有数の規模と医療内容を誇るにいたりました。これは、院長先生をはじめ職員の皆様のご努力もさることながら、〝医療に心を〟という院長先生の一貫した信念によると思われます。

ところで近年、医療界は高齢化社会に入り大きく変動しようとしています。同時に地域住民の医療に対するニーズも多様化し、一方、医療費の効率化が叫ばれるなど多事多端です。二十五周年を節目として、一層のご研さんを積まれ、地域医療に貢献されますよう祈念いたします。

富山医科薬科大学
教授　辻陽雄

人の幸せを生む努力に敬服

今から約十年前のことです。私が富山医科薬科大学に赴任する以前に、はるか千葉の地で、富山には整形外科単科の病院で大変ユニークな運営と地域医療に熟心で、高度な医療をやっている西能病院があるという声を聞いたことがあります。その後、何かの折に西能院長が、多くの育骨の病気の治療成績を持参し、専門の同じくする私共の居りました千葉大学に意見を聞いに来られたことがありました。それは大変高度の内容のもので感服した記憶があります。

いま、二十五周年、医療法人として更に内科を併設されている姿は大変なことであり、心からの祝いを申し上げると同時に、人の幸せを生む御努力には敬服せざるを得ません。

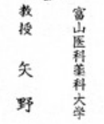
益々の御発展を祈念いたしております。

富山医科薬科大学
教授　矢野三郎

現在の姿は努力の結晶

開院二十五周年おめでとうございます。昭和三十年代以降、わが国の経済力は飛躍的な発展をとげてきましたが、その間、オイル・ショックを経験し、円高不景気を迎えるなど、幾たびか困難に直面しております。医療の世界でも、相つぐ薬価の切り下げ、老人医療の導入、健保の一部負担、医療費抑制など、多くの課題をせおって参りました。一方、医学の進歩はめざましく、この二十五年に教科書はすっかり書き直されたと申し上げてもよいくらいです。

西能病院はこのような激変の二十五年間、院長を指導者として、着実にそして又、ダイナミックな発展を続けてこられました。ここに深甚の敬意を表し、心からお祝い申し上げます。この二十五年を乗りこえてこられた院長はじめ病院の皆様の努力が結晶して、現在の西能病院の姿になっていると思います。次の二十五年にむかっても必要な変革にむかって、さらにすばらしい展開をとげられますよう御期待申し上げます。



富山交通安全協会
五福支部長
飯田久行

医療施設の中枢としての使命

ひと口に二十五年間と言いますが、西能病院が開院以来、いや、西能正一郎先生がどれだけ苦労され地域住民の福祉のため尽されてきたか計り知れないものがあります。

昭和三十七年頃の日本は貧乏のドン底から這い上り、漸く高度経済成長期の基調づくりに入ろうとした時であります。過日富山県が昭和六十二年度予算案三千七百六十七億四千八百万円余と発表されたが、昭和三十七年度予算の約十九倍強となっています。当時は人生五十年と叫ばれていたが最近は人生八十年と、それ以上の高令化となっています。自動車台数も驚異的に伸び交通事故も増えています。

このような激変する社会情勢下での医療法人西能病院の使命は五福校下住民は当然、西部地域の住民、そして私達が関与している交通安全についても必要欠くべからざる医療施設の中枢であります。

西能先生を始め関係者のご健康と医療法人西能病院の益々の発展をご祈念申し上げます。

(社)日本病院会
会長　諸橋芳夫

八面六臂の活躍に感謝

開院満二十五年を迎えられ、誠におめでたいことである。二十五年といえば半世紀にあたる。

西能理事長は海軍兵学校出身である。指揮官先頭の海軍精神と、我が身を顧み、日に五項目反省することで今日の大病院を築きあげられたこと。医療界は国の医療費抑制策下にあって、苦難と激動の時代を迎えているが、西能病院は常に世の流れに対し、先手先手と対応されてきた。その結果十床から百八十五床の大病院へと発展され、整形外科の中でも脊椎外科の専門病院として名声を博しているのは御同慶の至りである。凡そ「事業は人なり」というが、西能病院の組織、職員構成、五省会ニュースをみると正にその通りである。西能先生は中央にあって、(社)日本病院会の常任理事として衆望を担い、中小病院対策委員長、広報委員長、更には厚生省の医療審議会委員として日本病院会を代表し八面六臂の活躍をされているのは感謝に堪えない。今後の一層の発展を祈るものである。

京都府立医科大学
名誉教授　諸富武文

その名声は中央にも

西能院長と私との出会いは昭和27年に始まる。氏は弘前医科大学の最高学年の学生であり、私は初めての大学教授として整形外科を設いた。氏の整形外科への志向はこれより始まるといってよかろう。

氏は真摯なよき学生であり、整形外科教室入局後もテーマの研究に一筋に打ちこみ、学位の取得も順調であった。当時整形外科の普及が殆んどみられなかった富山県下において西では農協高岡病院の医員として先輩を助け、東では同濃川病院長として整形外科の地域医療に精魂を傾け、多くの患者さんの信頼を得ておられる。

昭和37年、多くの人のお奨めもあり、中央の富山市星井町でご開業、超満員のためご夫妻はプレハブ二年の生活をつづけられたが、時をあまりへずして神通川畔の秀峰立山を望む地に或るいは新築、或るいは増築を重ね、今の大病院となった。氏の名声は中央にも聞えておる。ご発展をいのる。

金沢大学
名誉教授　豊田文一

プライマリ・ヘルス・ケア

最近ヘルス・ケアという言葉がよく使われている。これは一九七八年、ソ連クザフ共和国のアルマアタの国際会議の最終日、各国の代表の合意により採択されたもので、その要旨は「全世界の人々の健康を保護し、増進するため、すべての政府、健康開発指導者、ならびに全世界の地域住民による迅速な行動が必要である」に始まり「新世界国際経済秩序の原則にのっとり、技術協力の精神をもって、全世界、とくに開発途上国においてプライマリ・ヘルス・ケアを発展させ、緊急的行動を要請する」と、このアピールは結んでいる。

それで医療にたずさわるものは、人間を個体全般として把握することであり、その健康と疾病の社会的関係、環境医学的関係を常に頭のなかに入れて疾病を診断すべきものである。ヘルス・ケアは健康管理と訳しているが、その流れのもとなる「アルマアタ宣言」の国際的合意を紹介して、医療関係者の自覚、国民への健康教育を要請したい。

祝開院二十五周年

カサマツ株式会社
松井薬品株式会社
株式会社　井上誠昌堂
株式会社　スズケン
株式会社　越屋
株式会社　永田メディカル
株式会社　清水医科器械店
有限会社　富山県義肢製作所
石橋医療品商会
酒井医療株式会社
丸石石膏株式会社
北陸医学臨床検査センター

富山市五福校下
自治振興会長
飯田政太郎

いろんな面で校下の発展に

西能院長には地域医療に貢献していただいているだけでなく、小学校教育はじめ校下のために尽していただいており、感謝しております。また、かたかご保育園（昭和五十二年竣工）も地域の子どもたちのために役立っており喜んでおります。

病院を五福に建てられるとき、当時、農業委員だった私は、土地の世話役をやりました。院長のお父さんが、挨拶にこられたとき「整形外科病院を建てたい」といわれましたが、私には〝整形外科〟とは何のことか、さっぱりわかりませんでした。

私が坐骨神経病で動けなくなったとき、院長に、わざわざ往診してもらいました。動かれるようになって通院、いまは腰の病みもなくなりました。それから健康精査もうけました。院内は清潔で、看護婦さんたちも親切でした。校下に西能病院があることは非常に心強く感じております。さらに医療施設を充実し、たくさんの人たちの健康に役立てて下さい。益々ご発展されることをお祈りいたします。

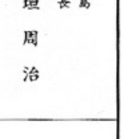
富山市五福末広町
町内会長
堀田直義

地域に密着した医療へ

わたくしの町内は、神通川のほとりで鳥羽丘陵に近く、かって歩兵連隊もあったが、元来は田園地帯ののどかな地域である。昭和三十三年に開催された国体を境に、ようやく人口がふえ始めたのである。

そのころ、西能病院が市内から移転をし、救急車が走り、患者の往来が目立つようになった。国道が通り、市電や射水線のある町内としては、いずれ発展の素地はあったのであろうが、住宅がふえ、商店や事業所も進出し町内は活気づいた。病院はその後病棟の増築や改築を重ね、近年は本来の整形外科の外に内科の領域にも拡大した。秀れた医局員や職員を多数擁して、外観内容ともに充実した立派な病院になったのはまことにめでたいことである。また、高齢化社会を迎えて地域に密着した医療を望む声の中で、いち早くこれに着目されたのは結構なことである。

開院二十五周年を祝福し、いっそうのご発展を祈念してやみません。



富山市鵜島
連合町内会長
稲垣周治

地域住民が寄せる大きな期待

地域住民を代表して心からお祝いを申し上げます。

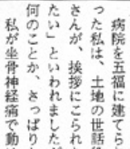
星井町から、当地に本病院を移転開設されたことは、地域住民として、遠くの病院より近くの病院として、喜こんでいたものであります。当地は、五福末広町でありますが、戦前戦後を通じて主に我が町内の人が耕作していた処に、近代医療設備で開設され、今日に至っていますが、その間、常に院長先生のたゆまぬ努力と、関係各位と職員一同の技術研究で、年々内容を整備拡充をされ、近在近郷の方の健康の確保と向上に、多大なる貢献をされていることは事実であります。院長先生の卓越した手腕のもとに、優秀な施設と、温かく、おもいやりの医療看護の道があってこそ、安心して利用者も増加するものと思う一人であります。今後、日進月歩する医療技術、機械導入等設備の近代化に尽力されまして、医療を通じて社会福祉に、おつくし下さい。当病院に寄せる地域住民の今後の期待は大きく、健康確保のため、一層の御活躍を念願いたします。

富山市連合婦人会長
五福校下婦人会長
長岡和子

地元の大きな誇り、心の支え

開院二十五周年という記念すべき年を迎えられ心からお祝い申し上げます。星井町に於て開業なさっておられた頃も、近所の人が、よく入院なさっておられましたので、たびたび病院を訪れておりました。改めて当時をなつかしく思いおこしております。それが、はからずも五福地域で開院されることになり大変うれしく心強く思ったものです。

院長先生の心ゆたかなお人柄による病院内の細やかなご配慮、五省の調を心に秘められ職員の皆様が心を一つにされて、今やおしもおされもせぬ大病院として、病める人々の為に日夜を分たず、医療の道にご精進下さることに対し、心から敬意を表し、感謝申しあげたいと存じます。西能病院の存在は、私達地元の住人にとって大きな誇りであり、又日常生活をしている上に於て、近くにすばらしい病院がということで、大変心の支えになっているように思います。西能病院のますますのご発展をご祈念申しあげます。



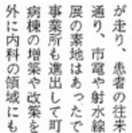
医療法人財団五省会
常務理事
林敏彦

深い洞察力と鋭い先見性を

二十五年の間、幾多の難関を見事に乗り越えられ、記念すべき時をお迎えになりましたことは、まことに喜ばしく心からお祝い申し上げます。又ここまで立派な病院に築きあげられた院長始め職員各位の多年の努力に対し深く敬意を表する次第であります。

今日の医療を取りまく環境は、非常に厳しいものがあります。厚生省の発表によりますと富山県においては、ベッド数が人口十万人当り千八百九十七床、全国平均千四百七十床と大きく上回っております。

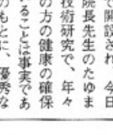
このような厳しい環境の中では、従来の診療の延長では時代に取り残されるのは必至と思われます。職員各位におきましては、常に勉強し研究発表していただいて良い医療を地域の皆さん方にご提供していただきたくお願い申し上げます。これからも院長始め職員各位が深い洞察力と鋭い先見性に満ちた病院経営をなされて二十五年の歴史にさらに輝かしい年輪を積み重ねられるよう心からお祈り申し上げます。



医療法人財団五省会
評議員
稲垣忠一

〝心の時代〟の医療を

二十五周年おめでとうございます。挽ホぬ努力と先見性でここまで来られた西能院長の卓抜せるリーダーシップに心から敬意を表します。病院の顔、五省会ニュースはいつも患者さんのニーズに応えるべく医師、看護婦さんが一体となって前向きに取り組んでおられる姿勢を拝見して嬉しく頼もしい限りです。医療は原点に戻らねばならないのではないか。病気は単に技術だけで克服できないことを悟らねばならないのではないか。患者の患部だけを物理的に見るのではなく、生きた人間の傷みの解る心でも捉えて行かねばならないのではないか。〝病いは気から〟と昔から云われるように、もっと心や精神的な面からの見直しが必要ではなかろうか。一億総心の病の時代、ストレス又ストレスの時代、情報過多の時代である。見せかけの巨大施設や複雑なマシーンだけで患者の傷は癒やせない。極端な言い方だが病院は医師や看護婦とのふれ合いによって心を治す信頼の場であって欲しいと思う。



かたかご保育園
主任保母
高木克子

体験学習で健康への関心

西能病院が開院二十五周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

昭和五十二年に病院職員寮、社会福祉法人保育園の併設という斬新な事業計画で建設された当かたかご保育園も本年十周年を迎えております。社会福祉施設と厚生施設が隣上、階下に異和感なく存在し、寮生の方が出勤された園庭では子供達の元気な声が毎日飛び交っています。先般、園児が病院訪問を致しましたが、健康への関心、病を持つ人へのいたわり、医療に従事する人への敬い、新機器への驚きと感動を与えてあり、体験学習の場を与えて下さった病院長、園長にたいし感謝しております。又子供達の生活の中にも「おばあちゃん西能病院へ入院したの」「自転車で足はさんで包帯してもらった」など、日頃地域医療の重要性を話される病院長の考えの浸透を感じております。極端な言い方だが病院の発展を祈念致しております。今後とも御指導をお願い致しますと共に病院の発展を祈念致しております。

株式会社富山県寝具センター
有限会社　不二ビル工業
サカキ産業株式会社
富山交易株式会社
株式会社　竹中工務店
北菱電興株式会社
鈴木工業株式会社
第一交易株式会社
有限会社　沢端商店
西田地方食糧販売企業組合
株式会社　富山栄養
寺下鮮魚店
株式会社　富山魚介

大地を踏んで

座談会

障害を乗り越えて、自立の道へ

司会　このたび西能病院が開院二十五周年記念日（三月二十一日）を迎えるにあたり、五省会ニュースが創刊号（昭和五十五年十一月）から連載してきました「大地を踏む」に登場の六人の方に出席していただき座談会を開きます。皆さんは、それぞれの障害を克服してこられましたが、事故又は病気にあったときのこと、現在の状況をお聞かせください。

三カ月も意識不明

島　五十七年四月、ジョギングのあと倒れ、富山市民病院でくも膜下出血と診断されました。意識が回復するのに三ヵ月もかかりました。現在は一ヵ月に二回市民病院へ通うのたわら、西能病院でリハビリ訓練をうけています。昨年、会社を退職しました。

左足義足で寿司店を

安部　四十二年十月、十九歳のとき、オートバイを運転中、乗用車にはねられ西能病院に三年間入院しました。左下腿部を切断、左足は義足です。現在は、妻と二人で寿司店をやっております。子供は三人です。

出席者

▽黒瀬由美雄さん（51）
大沢野町上大久保

▽安部　隆さん（38）
富山市呉羽町丸富

▽島　清松さん（71）
富山市五福末広町

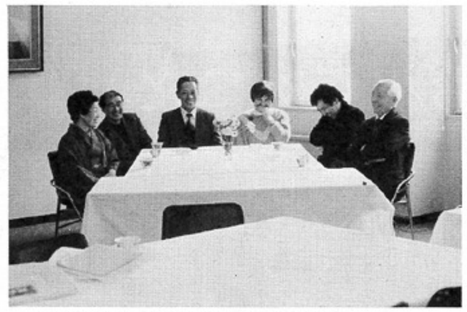
▽村山　二郎さん（59）
富山市蛭町

▽大谷　久子さん（59）
井波町本町

▽長谷川信子さん（57）
富山市五福四区

（司会、五省会ニュース担当　田村昌夫）

―西能病院5階小会議室―



写真は座談会場―西能病院5階小会議室―

ミシンで刺しゅうを

長谷川　六十年三月、西能病院で左股関節固定術をおこない、八ヵ月入院しました。夕方になると、足が重くなるほかは異状なく、歩行は大丈夫です。でも外にでるときは車に頼っております。ジャガドミシン（ミシンが十台連結されている）で刺しゅうづくりをやっています。趣味と実益をかねたようなものです。

回復した言語障害

黒瀬　五十四年二月、家の中で脳出血で倒れました。急救車で富山市民病院に運ばれるときに、母は「もう生きてもどってくることはないだろう」と手を合わせていたそうです。手術のあと、三週間は意識が不明でした。左片麻痺で左の手足が不自由、やっと歩ける状態で西能病院に入院、三年間にわたり、リハビリ訓練をつづけました。どんどん歩けるようになりました。

それから言語障害でうまくしゃべれませんでした。初対面の人とは話が通じないこともありました。酔っぱらいと間違われたこともありました（笑い）。それが五十八年ごろからしゃべれるようになり、昨年からさらに楽になり、いまでは普通に近い状態に戻りました。

病院で見た人生の縮図

司会　皆さんは長い間、西能病院に入通院され、手術もされました。いろいろの思い出話がたくさんあることと思います。

けんかしない約束を

安部　病院に入院中は足の訓練と称して、抜け出してよくパチンコへでかけたものです。とにかく、パチンコ店で立ちる練習をしました。おかげで寿司屋の職人になっても役立ち、今では自分の店をもっている状態です。こうやって寿司屋をやっておられるのもリハビリの矢野先生に勧め先を紹介してもらったおかげです。私は短気だったもんで、矢野先生から「五年間は、けんかしない」と約束させられたもんです。（笑い）

それから、五省会ニュースにもでましたが、結婚は西能病院に縁結びしてもらったようなものです。私が入院中に、女房は高校生で病院にアルバイトにきていたので顔見知りになりました。そのあと、大和富山店で、ひょっこり会ったのです。女房は高校を卒業して大和に勤めていたのです。それから付き合うようになり、いつの間にか一緒になってしまいました。（笑い）

長谷川　義足の方が痛むようなことはないですか。

義足のエースで

安倍　今は、もう全然痛まないです。今じゃ、いろんなことをして遊んでいます。四十四年九月に独立して店を開いたあと、すぐ軟式野球とソフトボールの「天狗チーム」をつくり、私も出場しました。「義足のエース」として新聞にだしてもらったこともありました。家には、ソフトボールなどのトロフィーがたくさんあります。

ギプスでだるまさん

長谷川　入院した当時は、（どうして、こんなに目にあわなければならないのか）と思ったもんです。乳の下までギプスしました。本当にダルマさんといっしょでした。（笑い）しかし、人生の縮図をみた思いがいらっしゃるでしょう。大変な人もね。まあ、一口ではいえませんけども、なんていえばいいかな、自分はまだ治る見込みがあるし、幸福だと思いますのね。キリがないですもの。おかげさまでまるハカ月入院していましたが、完全についたらウソになりますが、完全に近い姿になりました。生活には不自由がないし、だから喜んでいます。

リハが心配でウロウロ

黒瀬　富山市民病院から西能病院に移るとき、「リハビリってどんなことをするのか」と人に聞いたら、「相当厳しくて、つらいものだ」といわれ、〝おどかし〟を受けたような気持ちで、おそるおそる西能病院に入院しました。そのうえ、「奥さんは、こられなくてもいいです」といわれて、さらに心細くなり、（こりゃえらいこっちゃ、わしゃどうしようかなあ）なんて、心配で心配で…。

最初の夜は心が落ちつかず寝れません。それで病室や廊下をウロウロしていたんですね。そうしたら、坪内さん（看護婦）が「あんたなにウロウロしとるがいね。心静かにやすまれ」いわれました。心配ごとを打ち明けたところ、色々と、リハビリの話や心の持ち方を教えていただいたのです。

二キロを歩く訓練

村山　右手足が動かなくなり救急車で県立中央病院に運ばれたのが五十七年十二月三日。脳出血と診断されました。五十八年三月に退院、引き続き西能病院に通院してリハビリ訓練を行なっております。家が富山市荒町で交差点近くにあるので、荒町からバスに乗って病院へ。帰りは一本杖を頼りに歩く習慣をつけました。四年間つづけています。二kmはありますかね。

司会　どのくらいの時間がかかりますか。

今では一時間で

村山　いちばんかかったときは一時間半くらいでした。それが、いまでは一時間ぐらいになりました。おかげで、これだけ元気になり、嬉しく思っております。普通の人であれば、三十分ぐらいですかね。

〝ビュー〟と自転車で

大谷　五十七年一月に西能病院に入院、精密検査したところ両股関節の骨がボロボロになっていることがわかりました。「老化現象ですか」と聞いたら、他の骨は大丈夫だから人工関節で補強することが最善だといわれ、両方とも人工関節にしてもらいました。現在は杖をついていますが、あんまり不自由を感じません。自転車にも乗れます。井波は坂道ばかりあるもんで、上り坂は大変ですが、下り坂は〝ビュー〟とこれるので、回りの皆さんから「なんちゅう元気になられたんや」といわれます。（笑い）洋服店をやっております。

心の温まる親切

開院二十五周年。第二の四半世紀に向かって出航される飛躍の年です。良い医療を確立されてより多くの患者を診て下さることを祈念します。

私は一月二日に入院しました。慎重、綿密な診察と高度で充実した適切な医療。心の温まる親切。かゆいところに手のとどく看護などによって、意外に早く全快の運びとなりました。西能病院の前途をお祝い申し上げます。西能病院の前途をお祝い申し上げまして御礼と御祝詞といたします。

＝入善町們山新、長嶋友蔵（64）＝

人の痛みがわかる人間に

過去一年間の入院生活。入院はもうコリコリと思い退院、復職して三年、またまた怪我で再入院。物にぶつかり体のバランスを崩して転倒してしまったのです。恥かしいやら、悔しいやらで茫然としていました。でも今はお医者さんや看護婦さんたちの温かい厚身的なお世話に甘え、感謝しています。明るい気持ちでリハビリ訓練に励み、思いのほか回復も早く喜んでいます。この苦い経験を無にすることなく、少しでも人の痛みのわかる人間になりたいと思っています。＝小杉町戸破、沢田幸子（48）＝

心の隅に残っていた

開院二十五周年、おめでとうございます。私が初めて西能病院のお世話になったのは、もう十四年前になります。それ以来、おかげ様で〝西能さんへ行ったら〟と自然に出てしまい、一度お世話になった病院はなんとなく心の隅に残っているものでございます。このたび、自分も交通事故にあい二度目のお世話になっております。これからも患者の心に残る病院であることを切望いたします。＝富山市藤の木宮、池田愛子（34）＝

開院二十五周年によせて

～入院患者から～

心安らかに療養

当病院との縁は右足を骨折したことからはじまりました。

担当の先生の適切な診断、わかりやすい説明など痛さと不安な心の動揺がいつの間にか消え去り、現在は心安らかに療養させて戴いております。

患者は、とかく我が侭なものです。それを優しく、きびきびと笑顔で接して下さる看護婦さんや職員の皆さんの姿には頭の下がる思いで感謝いたしております。

当病院の御発展と入院患者さんの早い御快復をお祈りいたします。＝富山市四熊町、中村愛子（59）＝

生き甲斐を求めてがんばる

人の中へ出て語り合いを

司会　皆さんの現在の生き甲斐はなんですか。周囲からの元気づけもありましょう。趣味などについても結構です。

長谷川信子さん

健康で楽しく仕事を

長谷川　生き甲斐というたら大げさですが、毎日毎日を健康で楽しく一生懸命、仕事ができることが一番の喜びですね。それと、みんなと一緒に食事にでかけたりするのも楽しいですね。

黒瀬由美雄さん

だっこして散歩を

黒瀬　私は保育所の仕事をしている関係上、赤ちゃんがだんだん大きくなっていくのが楽しみです。そんなとき、（やらなきゃならん）という気持ちになります。

趣味といえば発明研究会の理事をやっています。毎月、第三日曜日に県中小企業センターの七階に集まり、いろいろ考えたり、語り合ったりしています。女の人も若い人もお年寄りも、みんなでやっているわけで非常に面白いですね。これが私の生き甲斐です。とにかく、人の中へ出ていくことが大事だと思います。引っ込み思案はダメだと考え、出かけています。

村山二郎さん

「頑張って」が嬉しい

村山　杖をつきながら歩いていると、「村山さん、がんばって！」と呼びかけてくれるのが一番嬉しいですね。自動車ガラスの商売をやっている関係上、車を止めて元気づけてくれる人もいるし、手を上げていく人もおります。有難いことだと思います。そんなとき、（やらなきゃならん）という気持ちになります。

大谷久子さん

唯一の楽しみはマージャン

大谷　物にはならないんですが、多趣味なもんで…。おコト、お花、お茶やら。友だちもたくさんいるもので、まあ楽しんでおります。だけど、唯一の楽しみはマージャンなんです。仲間は、男女を問いません。息子の友だちや、主人の友だちやら（主人は昨年亡くなりました）あちこちから呼びだしがかかるので毎日みたいなものです。夜だけで、八時半ごろから一時すぎまでですね。息子には「ちょっとやりすぎだ」といわれていますが、昼寝などしたことはありません。（笑い）

島　清松さん

世話になっている西能病院

島　私は西能病院が生き甲斐のようなものです。私は警察に三十二年ほどおりまして、交通事故のことで院長を知ったわけです。西能病院には現在息子が入院しており、女房の縁のだんなさんも紹介しました。なにしろ、病院の方たちが親切で感激しております。上手によく診られるし、ありがたいことです。そして患者さんに希望をもたせるようにはげましてくれます。

司会　これで終わります。有難うございました。

安部　隆さん

子供たちの成長が楽しみ

安倍　生き甲斐は、なんといっても子供たちの成長でしょうね。三人いますが、みんな女です。

前向きの姿勢で

司会　皆さんは、それぞれの生き甲斐を持ってがんばっておられますが、生活の中で前むきに実行しておられることがありますか。

できるだけ愉快に

村山　できるだけ愉快にすごすということですね。朝早く起きて城跡公園へ行くと、毎朝、きていた、こんな病気になって寂しさがみられないね。なんでも話をして、たまに面白いこといったり、笑ったりしたら、どうにでもなるんじゃないですか。だからけがをした人には「なにいうとるか。オレをみてみよ」と、片足で銭湯でもトントン飛び回っていますよ。だれが見ていようと、もうはずかしいということは考えません。子供たちとは一緒に銭湯にいって、おやじは足が悪いということを見せて、人にひけ目を感じさせないようにしてきました。

片足で銭湯を

安倍　だから、本人の気持ち次第ですね。それで明るくなったり、暗くなったり、どうにでもなるんじゃないですか。だからけがをした人には「なにいうとるか。オレをみてみよ」と、片足で銭湯でもトントン飛び回っていますよ。だれが見ていようと、もうはずかしいということは考えません。子供たちとは一緒に銭湯にいって、おやじは足が悪いということを見せて、人にひけ目を感じさせないようにしてきました。

普通の人より早い

村山　私も銭湯では片手で洗髪を脱いだり着たりしています。一人でできますよ。今では普通の人よりかえるのが早いくらい。だから、いちいち気にしていたら、どこへも行けません。

私も心掛けよう

長谷川　たえず前むきじゃないと、だめなんですね。私も、そのように心掛けましょう。

司会　最後になりますが、西能病院に望むことや、感じたことがありますか。

すべてが神のお使い

黒瀬　お医者さんといい、看護婦さんといい、薬といい、すべてが神のお使いだという本を読んだことがあります。それで院長さんには、えらい世話になりました。世話になったという人もたくさんいます。病院でも先生も看護婦さんも、親切なんですね。患者中心の精神がにじみでています。私が命拾いしたのも院長さんのおかげだと思っているわけです。

患者中心の精神が

島　私は町内の世話をしていたんです。それで院長さんには、えらい世話になりました。世話になったという人もたくさんいます。病院でも先生も看護婦さんも、親切なんですね。患者中心の精神がにじみでています。私が命拾いしたのも院長さんのおかげだと思っている わけです。

親切な病院

島　こんな親切な病院は経験しておりません。みなさん、有難うございます。

自分の家のように

安部　いい病院だった。自分の家のように、安心して、すきなことをしてきました。

感じがいい玄関

長谷川　玄関で、おばさんの「お早うございます」が、とても感じがいいです。玄関もきれい、中もきれいです。みなさん親切ということありません。

リハの忍耐心に感心

大谷　みなさんに親切にしてもらって嬉しかったです。長い間のリハの訓練ぶりをみて、忍耐心に感心しました。

内科の設備の充実を

村山　内科があるんですから、もっと充実した設備にしてほしいと思います。

病人扱いにしない

黒瀬　病人を病人扱いにしないところが有難いです。そして患者さんに希望をもたせるようにはげましてくれます。

司会　これで終わります。有難うございました。

開院二十五周年によせて

～入院患者から～

痛みが消え、心安らぐ

リューマチ、この難病に十数年苦しみました。あらゆる薬を服用しましたが、病みはとれません。この痛みは病める当人でなければわからないと思います。御縁あって西能病院に入院し、適切な治療と、和やかで親切な看護婦さんたちに囲まれてすごしているうちに、頑固な痛みが消え、心も安らぎ、体重も増えてまいりました。もっと早く来ておればよかったと後悔している次第です。同病で苦しみの方々に、一日も早く診察を受けられるようお勧めしたいと思います。＝福野町、釜田澄子（64）＝

五省訓の行き届いた看病

小生、はからずも入院して手術をうけ、西能病院の実態を体験し感服した一人です。看護婦はじめ職員の親切、吟味された食事、先生方の手術の技術など、すべてです。そして病室のきれいなこと、病院内の清潔さなこと、五省訓の行き届いた看護、文句なしの全国A級病院だと思います。満床で院長はじめ職員の皆さん大変ご苦労さまです。この多忙の中、院長に旧制富山高校同窓会事務局長をお引き受けいただき役員の一人として感謝の心で一杯です。＝富山市大泉一区南部、金子清三郎（71）＝

「これでよし」では成長が止まる

〝富山に西能病院在り〟と謳われる今日を招来されたことを、この上なく慶賀し、お喜び申し上げます。施設設備などの充実、鬼手仏心の先生方、優しい看護婦さん、美味しい給食に調理士の方の気のくばり、立派なみなさまの心がけが今日の西能病院を築きあげたのでしょう。

しかし、何事も「これでよし」と思ったときに成長が止まります。よりよき発展をめざして職員各位の御健勝と、益々研鑽されますことをお祈り申し上げます。＝富山市水橋高堂、浅野光子（74）＝

給食は患者本位で家庭の味

院長さんはじめ職員の皆さまに尊敬と御祝詞申し上げます。治療に看病に真実性をモットーに明るくして頂き、謝恩の念を新たにしております。

給食の時間帯の問題は各病院の悩みの種が現状です。朝食八時、夕食四時すぎが普通ですが、当病院は朝食七時、夕食六時です。温かい内に滋養に配膳され、患者本位の家庭の味で心に安らぎを与えて下さいます。患者もお互いに切磋琢磨しております。益々、皆さまに好かれる病院として御繁栄のこと確信しております。＝大門町串田、大居俊正（63）＝

思いやりある医療提供

創立二十五周年を迎えた西能病院が、これを転機にさらに「質高く、思いやりある病院」づくりに全力をあげる。地域住民の欲求を吸いあげ、地域住民の健康の保持増進に積極的に取り組む。最近の医療行政を見ていると、病院のベッド規制や老人の受診抑制、長期入院チェックなど、病院に的を絞った施策が次々と打ちだされている。このため、どの病院も生き残るためにいろんな工夫をこらしている。しかし、ただそれだけのための患者サービスということであれば、医療は寒々としたものになろう。

“医療に心を”と叫びつづけてきた西能病院の工夫は一味も二味も違っているようである。本当の医療サービスとは？　これからの病院のあり方とは？など、西能病院を支える三氏に意見交換をお願いした。

病院の現状

光里　最近の病院医療、とくに病院経営面では、国の施策は暗いものばかり。医療費抑制について病院にターゲットをしぼってきましたね。

西能　そう。まだはっきりしませんが、老人保健施設問題だって、その一つじゃないのでしょうか。長期の入院患者で、治療効果のないものは退院させるということですからね。やがては、この患者は入院治療していてよいかどうかお上に尋ねなければならなくなる……。

山本　厚生省は、病院本来の機能に重点を置いているんだろうと思うんですね。とくに急性期の。病状が変化しなくなった患者さんには老人保健施設を利用してもらい、医療費を節約しようという考えだと思うんですよ。ただ、急性、慢性をどこで線を引くかはむずかしい問題だと思うんですね。

光里　それと、病院側にとっては経済面でかなり影響がでてきますね。

西能　そうですね。まあ強制的に、たとえば六ヵ月なら六ヵ月ときちっと区切って、この時期がくると入院していても意味がない、施設へいけということになると、結構影響するかも知れません。

ただ、それは病院の体質にもより、急性期をこなすだけのスタッフなり設備をもっておれば、余りこわいことはないでしょう。

山本　日常、そのような患者さんに接しているから感ずるんでしょうね。

西能　最後は、受け皿になる家庭の問題になるんじゃないですかね。

入院していても治療効果が限界となったお年寄りは、やはり家族へ帰るのが一番よいんですが、それがどうも家族の事情がありまして……。たとえば、共稼ぎなので面倒をみきれないとか、通院するには老齢のためちょっと具合が悪いというようなことが続いて、結局は長期入院になるケースが多いわけですね。

そうしたことについては、ケースワーカーがそれぞれの患者さんにどういう方向で治療を続けるのが良いか、家庭とのコンタクトをどうとって、どうするかと頭を痛めているわけですが、なかなかむずかしいようですね。

いま、そうした大量のお年寄りが、病院から施設なり家庭へ移るということになれば、大変な社会問題になるかも知れません。

光里　国の医療費抑制は結構だとしても、そのためにそうした制度を推し進め、それでお年寄りは幸せになるでしょうか。聞けば、もう全国で七ヵ所をモデル中間施設に指定し、着々と実施に踏み切ろうとしているようですね。

山本　それでなくても複雑な医療制度に、さらに老人福祉だの社会福祉だのが絡んだ大きな問題なんですね。

西能　そう。光里さんが初めにいったとおり、私たちにとっては“冬の時代”がつづくようですね。しかし、だからといって手をこまねいてはおれません。いまこそ発想の転換期だと思いますね。お互いにがんばりましょう。

明るい病院づくりを話し合う西能斌（副院長）、山本玲子（看護部長）、光里専蔵（事務部長）

診療の多様化

光里　病院の危機が訪れているわけですが、専門化さえしていけばこわいことはないんだと、ある病院の偉い先生がおっしゃっていました。当院は整形外科が専門なんですが、最近、内科も扱うようになりましたね。副院長が先ほどおっしゃった発想の転換ということになるんでしょうか。

西能　いや、いや。確かに西能病院は開院以来、院長ががんばって脊椎外科を中心としてやってきました。実際問題、外来にこられる患者さんの病状別割合を見ますと、脊椎関係が1/4、関節関係が1/4、その他外傷などが1/4というところです。そのウマチとかいろいろありますが、そうしたものの特殊外来をやっていく。つまり、一段と専門化、細分化が進むわけです。まあ患者さんのニーズに合わせていくということです。

抑制策、病院が目標
病院は発想の転換期

が、老人保健施設、つまりの中間施設のことですね。こうした施設はうまくいくんでしょうか。

西能　最後は、受け皿になる家庭の問題になるんじゃないですかね。

整形の専門性を更に追及
ニーズに合わせ特殊外来

の意味では、伝統の脊椎治療はずっと続いていくわけです。

一口に整形専門といいましても、さらに細分化されて、ヒザ関節とかリウマチとかいろいろありますが、そうしたものの特殊外来をやっていく。つまり、一段と専門化、細分化が進むわけです。まあ患者さんのニーズに合わせていくということです。

つまり、そうした大量のお年寄りが、病院から施設へ移るということになれば、大変な社会問題になるかも知れません。

光里　国の医療費抑制は結構だとしても、そのためにそうした制度を推し進め、それでお年寄りは幸せになるでしょうか。聞けば、もう全国で七ヵ所をモデル中間施設に指定し、着々と実施に踏み切ろうとしているようですね。

山本　それでなくても複雑な医療制度に、さらに老人福祉だの社会福祉だのが絡んだ大きな問題なんですね。

西能　そう。光里さんが初めにいったとおり、私たちにとっては“冬の時代”がつづくようですね。しかし、だからといって手をこまねいてはおれません。いまこそ発想の転換期だと思いますね。お互いにがんばりましょう。

医療技術の向上に努力

国家財政の危機と医療費抑制策が進むなかで、これからの病院ならびに医師は、選ばれる立場に立っていると言わざるを得ない。我々医師は、一人一人が開業医になったつもりで患者サービスの向上に努めると共に質の高い医療を提供できる様に医療技術の向上に努力する必要がある。（医療部パラメディカル部長、吉岡勉）

個人の意見に耳を傾ける

医療関係という職場で働くと、肝要な事は、各個人が自分の技術と自信をもつこと、もたせようにすることだと思う。そのためには各職場内で、互いに尊重し、傷人の意見に謙虚に耳を傾けるような雰囲気を作り出すことが大切な事だと思う。（診療部、奥村正）

いこいの場所づくりを

院内部署の連携プレーを密にして、患者さんをとりまく環境づくりに着目したい。花と緑にめぐまれた病院周囲、見舞い親族及び外来患者さんのいこいの場所づくり。身体不自由な患者さんへの交通機関の配慮を行いたい。退院後のアフタケアのテレフォンサービスを行いたい。（診療部、久保睦夫）

疾患別看護マニアル作成

医療の変化に対応し、自からの専門性を高め、よりよい看護ケアを目標に看護手順の作成に努めて来た。業務担当婦長として今年は特Ⅱ類看護の目的を果すべく、一方法として疾患別看護マニアル作成に着手している。特に新採用者のスムーズな技術能力の発揮に役立てたい。（看護部婦長、川西信子）

看護能力の充実に努める

看護教育担当婦長として新採用者教育、卒後教育に心がけた。これからも看護サービスの高揚には、資質の向上と看護観の確立が大切だ。そこで各自が積極的研鑽にとりくむ姿勢と教育的環境づくりに着目し、健康のあらゆるレベルに対応する看護能力の充実につとめた。（看護部婦長、金谷智恵子）

一人一人の研究を定着させる

看護研究婦長として四年目を迎えた。これまで年間五題の看護研究発表を行なった。院長から六十二年度の目標として出された「各人がプロとしての自覚と誇を持ち自己啓発を通じて自分の仕事のレベルアップを図る」ため一人一研究を定着させ看護サービスの向上につとめた。（看護部婦長、津田勝美）

わたしの提言

撮影技術のレベルアップを

整形外科に関するX線写真撮影においては情報量の多い撮影心が求められる。患者さんの最も要求されるのは被曝線量の低減ではないだろうか。これからはこの問題に取り組んで見たい。それは同時に撮影技術のレベルアップにもつながるものと確信している。（パラメディカル部、X線室、鍵政行）

「腰痛教室」の開催を

脊椎外科を主としている当院では、入院・外来とも腰痛症の方が多い。そこで、個別の診察・治療だけでなく、「腰痛教室」を開催したらどうか。ボディメカニクスや日常生活上の注意等、集団指導し、予防から術後の管理まで、総合的にフォロー出来る機会が必要と考える。（パラメディカル部、リハビリテーション、杉谷清美）

やさしい相談相手になりたい

西能病院とのおつきあいも十八年を迎えようとしています。その間、振りかえれば、無我夢中で歩んできたように思います。これからもたゆまぬ努力で馴れに流されず、常に初心に返り正確な投薬をして患者さんと平凡ながらやさしい相談相手になりたいものだと思います。（薬剤部、森川温子）

誕生日にお祝いの食事を

患者さん本位の給食改善を目ざすため、集団給食的なものから、徐々に患者さんの個別注文に応ずるよう各病棟を回って「ご要望をうかがい、又祝祭日には行事食、患者さんの誕生日には、お祝いの食事と添書きを、おだしすることが、おいしく、楽しく食べていただけるのではないかと思います。（栄養部、二口雅子）

接遇にゆとりがとれるように

毎日仕事に追いかけられ、余裕のない二十年間であった事を反省し、計画的に物事を進め、計算を正確にし、接遇にゆとりがとれる様、努力に努力を重ねて行きたいと思っています。（事務部医事課、安川みどり）

手作りのビデオを町内会へ

一、パブリシティ広告を新聞に出し、イメージアップをはかる。二、地域に密着した病院にするため、巡回マイクロの運行。三、私的病院としての「親近感」を持っていただくため、手作りの健康づくりビデオを作成し、地域の方に御利用いただく。（事務部施設課、田中行久）

地域の期待に対応

光里　事務部長

山本　看護部長

西能　副院長

病院サービス

光里　当院の六十二年度の努力目標として、院長から厳しい注文がつけられましたね。医療職、事務職みんなが一体となってクリアしなければなりませんが……。

西能　全くそのとおり。目標の主なものを整理すると、まず医療のレベルアップ、次がサービスのレベルアップ、そして地域活動ということですね。

光里　いま、どの病院もサバイバル戦略に必死のようですが、そのせいか、病院本来の機能である医療技術面がおろそかになっていないかという批判もあるわけですね。当院は医療技術面を含めた医療のレベルアップをまず掲げていますが、それが当然だと思います。その内容は？

西能　医師も看護婦も一般職員も、一人ひとりがプロとしての自覚と誇りを持て。そのためには自己啓発を通じて自分の仕事のレベルアップを図ることだというんです。しかし、こうしたソフトな面はむずかしいね。

まず医療のレベルアップ
患者さんの接遇に再挑戦

山本　そうですね。建物や病室が立派でも、医療の質がよくないと患者さんにとっては不幸なことです。

西能　ソフト面が先で次にハード面がくるべきなんですが、ちょっと逆立ちしているかな（笑い）

山本　でも、病院がいといけないから……。

ハード面のサービスなら、お金をかけるとできるんですが、人の問題といいますか、勉強しろ、自己啓発に努力せよといって実際上はなかなかでしょう。まあ医師が率先してやらなければなりませんが。医療サービスといっても、原点である医療の質そのものがよくなければ、どんなに立派な設備をもっていても、患者さんにとっては意味がない。

光里　そうですね。そして周辺サービスがうまくバランスがとれていたらいいということです。そこで目標の二番目にサービスのレベルアップがうたわれているんですが……。

西能　ひと言でいいますと、接遇の改善ということですね。第一段階は、きれいだとかいった居住環境といいますか、つまり居心地がいいということも、患者さんにとっては大事なことなんですよ。最近は日常の生活環境も非常によくなっているでしょう。ですから、きれいな所に入院したいという欲求も強いんです。

光里　なるほどね。結局はまずお医者さんの腕、そして周辺サービスがうまくバランスがとれていたらいいということです。そこで目標の二番目にサービスのレベルアップがうたわれているんですが……。

西能　ひと言でいいますと、接遇の改善ということですね。第一段階は、職員同志の間の接遇の改善、最終目標はもちろん患者さんに対する応対の向上にあります。要は細かいことにもよく気付く、気配りといいますか、それが患者さんに対する親切、思いやりに通ずるわけです。それだけではなく、病院のよい雰囲気づくりにもなり、治療上も大変効果があるんです。

光里　なるほど、そのお医者さんの腕、そして周辺サービスがうまくバランスがとれていたらいいということです。そこで目標の二番目にサービスのレベルアップがうたわれているんですね。そうした意味でも心のこもった接遇はすばらしいことですね。それと、病院全体の姿勢として、ややもすると患者さんに対して“診てあげる”という態度がでがちですが、これからは“診させていただく”というふうに立場を置きかえないと、本当のサービスができないんじゃないかと思うんですね。

西能　この接遇問題は、つい以前にも接遇改善委員会をつくってやりましたね。しりすぼみになりましたが、あれは評価の仕方がまずかったんです。

山本　今度はその点きちっとして再挑戦。接遇は、私たちにとって永遠のテーマなんですから。

看護制度と看護婦

光里　いま接遇の話がでましたが、その主体はなんといっても看護婦さんですね。その看護婦さんの世界に問題が起こっている……。

山本　はい、准看護婦廃止問題でしょう。

私は、准看護婦教育二年身についたものだけでは現実の高度医療の看護についていけないと思います。人間理解の能力や対象の高学歴化、看護の専門性、多様化に対応するためにも、看護基礎教育は四年生大学とすることが、必然だと思います。しかし、現行の保健婦助産婦看護婦法にどう規定していくかという問題が残ると思いますが、よりよい看護サービスを提供するために、看護の質の向上は、まず基礎教育の充実と卒後教育の定着、自己研鑽の自立の他にないと思います。もちろん資格は准看護婦でも人間性と看護に対する情熱があり患者さん、医師・同僚から信頼されているりっぱな人もいます。

基礎学力と人間性が重視
プロとしての義務と責任

西能　まあ、准看護婦が一定して看護独自の機能を十分発揮していくことが、質のよい看護サービス提供につながっていくと思います。

山本　やさしさは、みのりと、ゆとりから自然発生するものと思います。

しかし看護の中身を考えてみたときに、絶対に資格がなければならない業務と、資格がなくてもできる業務があると思っています。

西能　そういえば、ボランティアの方たちね。病院へこられると、病院の雰囲気が活気づくような気もするんです。あまり資格、資格というのはどうかと思いますね。

山本　准看護婦制度は、看護婦不足の解消策で誕生したものです。現在、富山県では百パーセントの充足率ですが、国全体ではまだまだ足りないわけです。そういうことで日本医師会も准看護婦廃止には絶対反対をいっていらっしゃるようですね。

一方、看護協会は、看護基礎教育を四年制大学とし、私どもの手に託される看護を必要とする人々に、より充実した看護サービスを提供するために看護の質を高めることが社会的義務でもあり責任でもあるという考え方です。

西能　まあ患者さん相手の仕事というのは、もちろん基本的な勉強が必要ですが、あとは人間性が大きく影響するんです。患者さんの立場に立った看護が第一ですね。

山本　やさしさは、みのりと、ゆとりから自然発生するものと思います。

光里　今年度の目標の三つ目、地域活動ですね。

地域活動

話は前後しましたが、今年度の目標の三つ目、地域活動は大いにやらなければなりませんね。

西能　そうなんです。西能病院がなんのためにあるのか、地域のみなさんのためにあるんだということを地域のみなさんに知っていただきたい。さらに病院のいいところをつかんでもらい、心やすくしていただけるような雰囲気をつくることがされた方でも、なにがしかの問題があれば、病院の責任としても経過観察をしています。

また、病気にならないために病院を利用していただくという考えで、健康教室を開きたいと思っています。とにかく、地域の方々から“一生懸命にやっとるわい。あそこなら安心してまかせてよい”と思われるまでにならないと、本当の地域医療になりません。

地域住民と共にある病院
院外へでて地域医療活動

光里　私たちは、外からくる患者さんの対応に馴れすぎて、病院の外へでる、地域の方々とのコミュニケーションを大切にしていくということを忘れたのかもしれませんね。知れませんね。

ただ、地域へでるといっても、病院サイドだけの考えで押しだしていくと、いろいろと摩擦が起きないでしょうか。

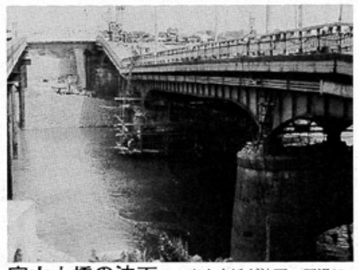
山本　訪問診療の場合、そのようなことが考えられますね。でも、まず当院を利用していただいた患者さんなら、充分できるんでは……。

西能　そうした問題点については、いま検討中ですが、要は地域住民のための医療活動を展開し、明るい未来のある病院に育てあげたいですね。

写真で見る二十五年の歩み

院内保育所 幼児を抱える女子職員たちの要望で、企業内保育所を開設。オモチャもいっぱいで、ひと安心。（45年5月）

ぴったりのすげ笠 下呂温泉へ職員の慰安旅行。木曽川のライン下りで、すげ笠がよく似合う愛員さん（45年10月）



富山大橋の沈下 富山大橋が沈下、不通になった。ただちに富山市桜町地鉄ビル1階に診療所を開設。（44年7月）

スイカ割り 職員が氷見市小境へ海水浴。家族もいっしょ。（50年7月）

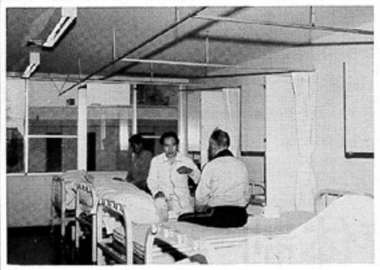
新車バス 患者通院用の三菱中型バス㊷を購入。（47年3月）

さっ爽と 野球部、バレー部、卓球部を結成。今は、ひと休み。（46年8月）

全職員のリレーで 第三期増改築工事が完成、既設棟から増築棟へ重要物品の引っ越し。（57年7月）

副院長に就任 西能城医長が副院長に就任。その祝賀パーティーが開かれた。（53年7月）

大はしゃぎの運動会 第1回の病院運動会を五福小学校で開く。童心にかえって大はしゃぎ。（52年10月）



清潔で明るい病室

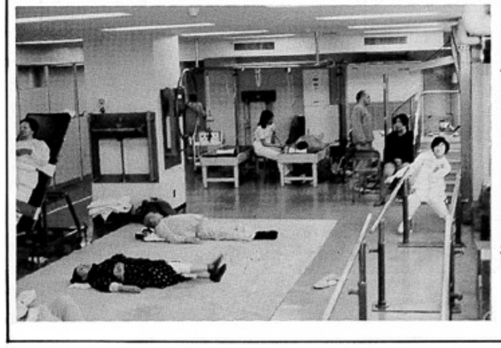
完全な治療を心がける診察室

ゆったりした待合室・受付

充実した医療システム

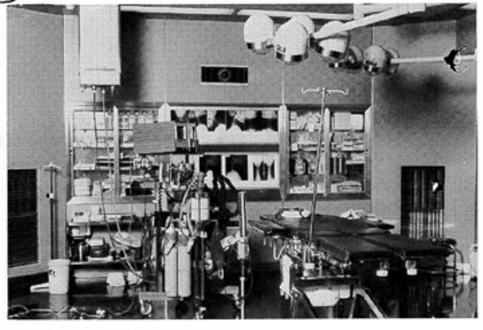
心くばりの日本間のサンルーム

患者から好評の三度の食事はディルームで



県下随一の規模を持つリハビリテーション部

〝信頼〟と〝奉仕〟



四階にある無菌手術室

障子が見える診療室 「自分の力を試したい」と開業した、診療室の若きハンサム院長。「開業当時は、まるで幽霊屋敷のようなものでした」と述懐する。（37年）

"若かったですね"

三八豪雪 毎朝、屋根の雪おろしと、入口の雪かきの連続。病室の窓から患者さんの顔に雪がふきこんだ。前列右が津田勝美さん。（38年、星井町の玄関で）

肉なしカレーライス 職員たちが初めてトラックで有峰にハイキング。肉を忘れて肉なしカレー。でも、みんな楽しそう。（38年夏）

草分けの訓練の場 完成当時の設備の整ったリハビリテーション部。一心同体になって、〝忍耐〟と〝根気〟の明け暮れ。（43年8月）

善光寺まいり 第2回目の職員慰安旅行は1泊2日で善光寺まいり。第1回目は山中温泉。（42年10月）

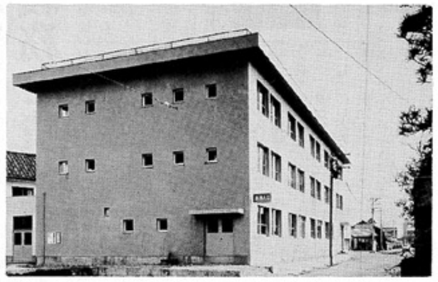
建て物の推移

懐しい木造時代の屋根の下

富山市星井町に西能整形外科医院を開設。木造二階建て。（37年3月）

富山市五福に西能整形外科病院を開設。木造二階建て。（38年12月）

10床から185床へ 明るく快適に



第一期増築工事が完了。鉄筋三階建て、塔屋一階。（40年4月）

第二期増築工事完了。鉄筋四階建て、塔屋一階。（43年8月）

第三期増改築工事が完了。鉄筋五階建て、塔屋一階。（58年3月）

心に残る思い出

「求められる地域の人たちに、より良い医療を提供し、いつまでもこの世にならなくてはならない病院としての存在意義を持たねばならないというのが私の終生の悲願です」（西能院長）。今年から自分の立場と能力を考え、テーマを選んで自己啓発の研究を実施。以下は古い職員の思い出話――。

富山大橋沈下で…

二十五年間の思い出の一つとして昭和四十四年に富山大橋が、大雨で沈下してしまい富山方面からの交通が遮断してしまい、それはたいへん不便な日々が続きました。通勤はもちろん、患者さんの診療もバスの運行路を変えて神通大橋を使用し時間をかけて市内回りをしました。患者さんのために富山駅前に診療所もできたことでした。＝石倉喜一（37年組）

診察室が病室に早変り

私が就職した昭和三十八年頃は、毎日フロアーに溢れるばかりの患者さんが来院されていました。病室は常に満床で一夜明けて出勤すると、夜間の救急患者さんで診察室や待合室が病室に早変り。まず患者さんの移動を診療開始までに行わなければなりませんでした。キャンバスベッドを使用するなどの苦慮が今は懐かしく思い出されます。＝津田勝美（38年組）

六畳間で透視撮影

二十余年前の星井町時代、廊下より三十センチも低い六畳間に透視撮影装置を一台置きこれで総てをこなしていた。

多数の救急患者を始め、手術患者、その他総て担架を用いて運び込み撮影していた事が昨日の事のように思い出され、当時の思い出として最も印象が強い。

現在の行き届いたX線室に比べると、正に隔世の感がある。＝鎧　貫（39年組）

〝火〟を待つ患者さん

「光陰矢の如し」雪の朝出勤するや種火を作り大きな火鉢に火を起し暖を取っていた頃、大急ぎで準備した火に待ちかねた患者さんの顔、顔、忙しい一日の始まりにしては何とも心なごむ待合室風景であった。

食事時分には、救急車が食事運搬車に変る等、現在では想像出来ないことが日課の一部であった星井町時代をなつかしく思う今日このごろです。＝伏木峯子（39年組）

新鮮だった〝整形〟の看板

私が娘の頃、今の南富山と西町間の市電通りに西能整形外科医院という看板が立っていた。当時〝整形〟という字が何ともいえない新鮮なものに感じられた。そのイメージそのままの西能病院は二十数年地域の人達と共に年輪をきざんできた。そんな病院で少しでも患者さんのお世話が出来るのがうれしい。＝井上千恵子（40年組）

永年勤続表彰者

西能病院は、二十五周年記念式典（三月二十二日、富山電気ビル五階ホール）の席上、つぎの永年勤続者十一人を表彰。

▼二十五年（一人）西能綾子

▼二十年（二人）三原美樹雄、森田由紀

▼十五年（三人）西能姫、宮尾英新、岩城真由美

▼十年（三人）川西信子、吉村靖、三ッ松節男

▼五年（二人）山本玲子、庄司伸江

スポーツ外来の開設によせて

副院長兼診療部長　西能　竑

西能副院長

近年スポーツの普及はめざましく、プロ、アマの競技スポーツをはじめ、健康とレクリエーションを目的とする民間スポーツが広まり、国民の75％近くがスポーツ活動を行っております。特に富山県では日本一のスポーツ県を目指し、二〇〇〇年国民体育大会の開催に向けて、そのスポーツ熱は段々と高まっております。スポーツは身体の強化、精神の新鮮化などにきわめて有効でありますが、時には過激な運動や訓練のために、予期せぬ障害を起す場合もみられます。このような観点から、日本体育協会をはじめとする関連機関では、スポーツドクターの育成を手掛けてきた。私もこの主旨を理解し日本体育協会の定めるスポーツドクター養成コースを終了して、昭和62年1月17日付けで、スポーツドクターの認定をうけました。

以前から当院では近接する富山大学をはじめとする学校スポーツの障害や、公的スポーツ競技会の救護活動を通じて、スポーツ障害の治療における実績を重ねてきたのでありますが、スポーツ医学の内容は広く深く、単に整形外科の一分野ではなく、総合的な医学知識を要する新たな医療と考えられます。

今度の日体協スポーツドクター認定を機会に、昭和62年4月よりスポーツ外来を開設し、スポーツ医学の分野でより広く尽力したいと思います。

スポーツ医学は障害の治療はもとより、メデカルチェックに基づく予防医学、またトレーニングの方法など多くの課題があり、当院では内科、整形外科、検査、レントゲン、リハビリテーション等のスタッフが総力をあげて、期待に応えるべく努力を行ないますので、気軽に御利用頂きますよう御願い申し上げます。

広い分野で尽力したい

総合的な医学知識を要する新たな医療

スポーツ外来

四月から開設

毎週火曜日　午後3時から6時まで。

（詳細は1階受付、またはTEL㊶2481まで）

＝4月から開設＝

病院だより

一月

一日＝接遇改善推進チーム、二十三チームが発足。委員長久保晴夫、副委員長三原美樹雄、同水下文雄、書記小松恵子。

三日＝仕事始め、新年会。

六日＝誕生会、十七人出席。

十六日＝循環器外来開設。

十七日＝西能竑副院長が日本体育協会から公認スポーツドクターとして公認。

十七、八日＝呉羽ハイツで、中間管理者研修会を開催。出席者三十人。

19日～23日（前期）＝吉岡部長、所沢市で開かれた義肢装具等適合判定医師研修会を受講。

二十五日＝病院理事、元法務大臣、故住栄作氏の葬儀が宮沢蔵相を葬儀委員長として二千人が参列、魚津市体育館で営まれた。

三十日＝健康教室、病院大会議室。

二月

一日＝杉田正治主任、大阪市大林ビルで開催の「21世紀CEO塾」の講座を受講。五月二十四日まで。毎月二回の計八回。マーケティング、財務戦略、組織管理など病院管理が主題。

十日＝誕生会、十三人出席。

24日～27日（後期）＝吉岡部長、所沢市で開かれた義肢装具等適合判定医師研修会を受講。

二十七日＝健康教室、病院大会議室。

三月

十日＝誕生会、十六人。

二十一日＝開院二十五周年記念日。

二十二日＝午後一時半から県民会館大ホールで記念文化講演会。午後五時半から富山電気ビル五階ホールで記念式典。

二十七日＝健康教室。

医療法人 西能病院の診療体制

一般受付時間（日曜・祭日は休診）

●年中無休・24時間受付の診療体制を敷いております。　●救急車（2台）は、要請により出動致します。

診療科目	曜日	午前	午後
整形外科	月～土	8：30～12：00	16：00～19：00
リハビリテーション科	月～土	8：30～12：00	13：30～19：00
内科	月～土	8：30～12：00	15：00～17：00 但し火曜日は19：00まで
泌尿器科外来	毎月第2、第4土曜日		13：30～17：00
神経内科外来	毎週木曜日		14：00～17：00
循環器外来	毎週金曜日		13：00～17：00 心臓病疾患、腎臓疾患でお困りの方はご利用下さい。
形成外科	毎月1回	8：30～12：00	（診察日は受付でおたずねください）